

平成23年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	スーパーサイエンスハイスクール	担当部署	初等中等教育局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成14年度	担当課室	教育課程課	教育課程課長 平林正吉			
会計区分	一般会計	施策名	Ⅶ-1 科学技術関係人材の育成及び科学技術に関する国民意識の醸成				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—	関係する計画、 通知等	科学技術基本計画(第3期)(平成18年3月28日 閣議決定) 教育振興基本計画(平成20年7月1日 閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校を「スーパーサイエンスハイスクール」として指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を支援する。						
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議や研究開発協議会の開催、中間評価の実施等を実施している。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・ 執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	2	2	2	1.4	4.6
		補正予算	0	0	0	0	
		繰越し等	0	0	0	0	
		計	2	2	2	1.4	4.6
	執行額	1	1	1			
執行率(%)	72.4%	62.8%	66.1%				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (毎年度)
	SSH事業説明会の新規希望参加校数	成果実績	校	54	77	81	80
		達成度	%	67.5	96.3	101.3	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	SSH企画評価会議等開催数	活動実績 (当初見込 み)	回	10	11	16	— (5)
		活動実績 (当初見込 み)	回	1	1	1	— (1)
	SSH事業説明会開催数	活動実績 (当初見込 み)	回	1	1	1	— (1)
単当たり コスト	99,824 (円/回)	算出根拠	予算額/(会議等開催回数) =1,697(千円)/(16回+1回) =99,824 (円/回)				
平成23・24年度 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	諸謝金	0.3百万円	1.1百万円	事業内容の増加に対応するため			
	職員旅費・委員等旅費	0.4百万円	3.2百万円	事業内容の増加に対応するため			
	庁費	0.7百万円	0.3百万円	事業内容の見直し等による事務的経費の効率化			
	計	1.4百万円	4.6百万円				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、用途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっている	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>事業の実施に関して、事前に開催時期・回数等の検討を行い、関係規定に基づき、証拠書類等を確認し、会議出席者への謝金・旅費等を支出している。</p> <p>これまでも単価等の見直しを行い予算の効率化を図ってきたところであるが、今後もこれまで同様、事務的経費の効率的で適正な執行に努めるとともに、今後、事業量の増加も見込まれることから、必要な経費について精査に努める。</p> <p>なお、不要が多いことについては、事業目的に即し真に必要なものに限定し、会場借料費等、庁費の支出の削減を図った結果、執行率を抑えることが出来たためである。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、科学技術・理科、数学教育の重点化を図るため、スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議や研究開発協議会の開催、中間評価・事後評価等を実施する事業であり、予算執行の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見：この事業は、平成22年度において予算に不用が生じているが、平成23年度において予算の縮減を図るなど一定の見直しを図っている。平成24年度概算要求においても、引き続き事業の効果的・効率的な実施を目指すべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）			
<p>この事業は22年度において経費執行の効率化等により不用が生じたが、23年度予算において積算単価を見直すなど、経費の縮減を図った。24年度要求においては事業内容の増加が見込まれるため、事業内容の再構築を行った。</p>			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

A. 文部科学省
1百万円

諸謝金	0.3百万円	} を含
職員旅費・委員等旅費	0.5百万円	

(スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議や研究開発協議会の開催、中間評価・事後評価の実施等を実施。)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

A. 文部科学省			E.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
旅費	協力者旅費	0.5			
諸謝金	協力者謝金	0.3			
教職員研修費	事業説明会会場借料等	0.2			
計		1.0	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金額 (百万円)	費目	使 途	金額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)